

# 海上の森だより

特定非営利活動法人  
海上の森の会 会報  
第26号  
2012年6月 発行



本会は、愛知万博問題を契機に注目された「海上の森の会」を里山として守り、楽しむために汗を流す市民が、行政との協働で立ち上げたものです。



4/1 里のくらしGおひな祭



5/20 里の教室が始まりました



5/20 調査学習会海上の森の春の植物



5/13  
NPO法人  
海上の森の会第  
3回通常総海会



5/27 調査学習会海上の森の野鳥



5/26 環境保全作業・ゴミ拾い



森づくりG間伐材のロープケーブル搬送

海上の森の会

検索

最新情報は  
HPで!

## 「あいち海上の森大学」で一緒に学びましょう

あいち海上の森センター主催の「海上の森大学開校案内」を同封します。昨年は私自身も「森林再生コース」に入学し無事？卒業する事ができました。講義内容は、大変解り易く基礎理論から実践、更にグローバルな内容まで、しかも現地研修も取り込まれていて毎回楽しく参加する事ができました。会員のみなさんにも是非ご紹介しますので、ふるってご応募ください。(福田 澄夫)

## 海上の森だより 26号

第3回通常総会報告	P2.3
グループ紹介森づくりG	P4
海上 いま むかし	P5
海上の森の豊かさを伝えたい	P6
グループ活動報告	P7.8.9.10
理事会議事録	P11
7月～9月活動予定	P12
海上の森の自然ノート	別刷

## 特定非営利活動法人海上の森の会 第3通常総会（報告）

去る5月13日（日）午前10時、「瀬戸蔵」多目的ホールで海上の森の会の通常総会が開催された。当日の出席者は128名（内委任状80名）、開会挨拶の山本副理事長から総会成立要件が宣言された。福田理事長は未曾有の東日本大震災がわが国にもたらしたエネルギー問題などにふれながら、本日の総会議案がNPO法人化して2年を経過した森の会の総括と今後の方針を示すものであり、審議の中で一層深めて欲しいと挨拶した。

来賓としてあいち海上の森センター近藤和幸所長・瀬戸市環境課山内道夫課長が出席され、代表して近藤所長が祝辞を述べられた。また、マリ クリスティーナ同名誉センター長の祝辞（メッセージ）も代読された（要旨別項）。



第1号議案（23年度事業報告）、第2号議案（同決算報告）が提案され、一部の訂正と削除、若干の質疑が行われたがいずれも賛成多数で承認された。監査報告では予算案に対する支出額の許容限度額について、理事会で検討することが指摘された。

第3号議案（24年度事業計画）、第4号議案（同収支予算案）が提案された。交付金事業についての質疑の後、いずれも賛成多数で承認された。次いで第5号議案（24年度役員を選任）が提案された。質疑の中で、理事の適正人数や理事会の傍聴制、審議事項の会報への報告などが提案され一部の検討が約された。新役員を選任も賛成多数で承認され、別室臨時理事会で互選された新正副理事長が報告された。福田新理事長が挨拶し、併せて山川元理事長の相談役就任が紹介された。（役員及び理事長挨拶別項）



瀬戸蔵での総会の様子。



新しく理事になられた石神英治氏

\* 平成24年度 役員

理事長	福田 澄夫	理事	鈴木 五男	同	平野 幸治
副理事長	藤野 昌之	同	鈴木 正司	同	山田 耕二
同	山本 征弘	同	鈴木 敏明	同	似内 信彦
幹事	山田 治義	同	出口なほ子	同	石神 英治
同	曾我部紀夫				

## 〔特定非営利活動法人海上の森の会 第3通常総会(報告)〕

### \* 福田 澄夫理事長挨拶

新年度の役員体制を承認いただきました。森の会はあいち海上の森センターと「海上の森の保全と活用のための基本協定」を結んでいます。里山学びの学習プログラムの取り組みでは、原点に立ち戻り真摯に進めます。また、今年度の基本方針①海上の森の将来像を検討する ②センターからの受託事業の一層の高度化を目指すスキルアップを図る ③受託金額の減少の折、さらなる財源確保の方途を追及する ④現行組織の見直しを図り、一層の改善を検討する ⑤様々なグループで構成されるが、横断的な活動にも積極的に取り組みたい。今後もよろしくお願ひします。



挨拶をされる福田 澄夫理事長

### \* 祝辞； 近藤 和幸さん（あいち海上の森センター所長）

この4月よりあいち海上の森センターに赴任してまいりました。森の会のみなさんには日頃より、当センターの業務や取り組みにご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。みなさんのご尽力なくしては、今日の海上の森の維持保全やセンターの活動は考えられません。さて、昨年、東日本大震災は未曾有の大災害と一方で日本の文化や自然環境、生活の在り方を真剣に考え行動することを提起しました。地域の環境や自然と調和した持続可能な在りかたを考える当センターの立ち位置でもあります。これらを実現するためにも、海上の森の会のみなさんとは強力なパートナーとなって取り組んでいきたいと願っています。みなさんの今後のご活動とご発展を祈ります。



本年度よりあいち海上の森センター所長として着任された近藤 和幸氏。

### \* 祝辞： マリ クリスティーヌさん（メッセージ）

あいち万博をきっかけに私もあいち海上の森センターとご縁をいただき7年目を迎えました。いつも様々な場で、皆様の想いを込めた活動を拝見し、この森の自然が保たれているのだと感謝しています。季節折々の取り組みの中で、私は秋の収穫感謝祭を一番楽しみに訪れます。昨年のカップ10に世界の多くのお客様をお招きした際にも、世界に通用する森と絶賛されました。これも皆様の日頃の地道な活動のたまものと尊敬しております。今後とも一緒に活動できたらと思います。森の会のご発展を祈ります。

## グループ紹介：森づくりグループ

グループリーダー 平野 幸治

平成 23 年度中部地区森づくり活動コーディネーター養成 ブロック研修（報告）

◇受講報告：愛知県緑化推進委員会よりの紹介で、森づくりグループ安藤廣夫氏の参加を理事会で決定した。以下は安藤氏の受講報告である。

◇研修内容

◆ 1日目 4月20日（金）

① 富山ファミリーパーク視察 NPO法人きんたろう倶楽部の作業地で、元荒れるがままの孟宗竹林を間伐、竹チップを散策路に活用した実践例を見学した。

② 交流会 研修会場（富山観光ホテル）に移動し、参加者が持参した資料などを使って各3分間スピーチを行った（8県18団体）。

◆ 2日目 4月21日（土）

① 開講式・あいさつ（社）とやま緑化推進機構

② 「富山県における森づくりの取り組み」  
富山県森林政策課

③ ワークショップ I

ファミリーテーター：寺川裕子氏

テーマ：「課題の共有と悩み事解決！？」 昨夜の自己PRをより詳しく3項目（趣味・実行・評価）に分け、バインダーに掛けてお互いに紹介しあった。悩み事も全て小紙片に書き出し、KJ法で整序し、グループ分け後ブレインストーミングにて解決策を出し、グループごとに発表・質疑応答を行なった。



ワークショップの様子

④ 事例紹介

「北陸ココ・コーラグループ」

「南砺の山々を守る実行委員会」

「オダケホームグループ」

⑤ 基調講演：「ボランティアの声におかれて」

草刈り十字軍運動本部会長 足立原貫氏

足立原氏は昭和49年5月、大山町など3町にまたがる約200haのスギ造成林のヘリコプターによる薬剤散布の公示を知る。マスコミも巻き込んで反対運動に乗り出した。学生らで下草刈りを実行する代案を提案、自身も東京まで出かけ全国から300名の若者を集めた。

「草刈り十字軍」と名づけ、7月から57日間で完了した取り組みだった。今も7月25日に富山県庁前で「入山式」（大きな草刈り鎌を手渡し、作業地に出発する）を行っている。（参考『草刈り十字軍』伊藤真智子著・小峰書店・1992年発行）

⑥ ワークショップ II

テーマ：「魅力的な活動の企画作りは」

参加者が今一番の関心事を紙に書き、同好者を募り、4グループに分かれて企画シートを埋めながら清書完成させた。



皆さんと意見交流をする、安藤です。

◆ 3日目 四月22日（日）

① ワークショップ III テーマ：「企画書の発表」

4グループがそれぞれ発表（安藤のグループは一番若い長野県のH氏（34歳）が発表）した。その後他のグループから4色のシール（新規性など表示）で評価し合った。

② 閉講式（修了証授与・あいさつ）（社）とやま緑化推進機構

③ JR富山駅にて解散 立山連邦があざやかに望見、実り多かった体験を後にし帰路に着きました。（4月23日 安藤 広夫）

## 17「百姓一揆が山口堰堤を実現」

先日、久しぶりに山口堰堤<sup>さんてい</sup>を見てみよう<sup>さんてい</sup>と海上の森駐車場から歩き始めた。以前、オオタカが頭上を舞っていたなと思い出しながら。小径はすっかりブッシュに覆われ、悪戦苦闘しながら堰堤にたどり着いた。かつての一の井の取水口も導水溝もすっかり朽ち果て、放置されていた。余水バケから勢いよく落下する水勢の姿は以前のままであった。



平成 14 年  
撮影 山口堰堤  
上流側

市制準備を整えていた隣接する瀬戸町が、馬ヶ城水源地に貯水ダムと浄水場建設を発表したのは昭和2年のことであった。ところが集水域が狭く、不足する水は尾根を越えた赤津川から導水管でまかなう計画であった。これを知った山口川流域(赤津川下流域)の農民(当時愛知郡幡山村)は、この川をの灌漑用水を取水源としていたから大騒ぎとなった。絶えず渇水に悩まされていたから、最上流部の旧山口村(大字山口)では「一滴たりとも他に引用することは一大事」と部落協議が続いた。

『幡山村誌』は次のように記している。「4月30日夜、山口本泉寺で村民大会が開かれ、血気盛んな若衆から“むしろ旗を押し立て県庁へ(用水確保の)農民一揆”が提案、決行が決議された。時刻は深夜直ちに村内に連絡せねばならない。村内にある要所要所にある半鐘を打ち鳴らした。これを合図に一戸一戸蓑傘姿、わらじ、股引、手弁当で集まり、むしろ旗を先頭に勢ぞろいした。村人達は堂々と西を指して出発した」とある。ところが猪子石あたりで夜が明けた頃、「先方に突如警察官を満載したトラック、黒い制服に着剣、顎掛

け姿の物々しい警察官が抜刀して“止まれ”と大喝一声」、当日はメーデーで警戒していた警官隊がいち早く情報を聞いて対応したといわれている。ともかく村人は北の方に向かって逃げ散り、捕らえられた面々も守山から電車で帰れと説諭されたという。県庁に達した十数人も、後続者もなくスゴスゴと引き返さざるを得なかったとある。

その後は再三瀬戸町役場と交渉、2区選出の樋口善右衛門代議士も仲介、渇水対策のため山口堰堤の建設が決まった。費用は全て県費を充て、瀬戸町も毎年1万円を堰堤管理費として旧山口村に支払うことが決まった。それからはむしろ積極的に建設に協力、幡山村から輪番で延べ数万人の人夫を出して協力した。

- ・昭和9年3月竣工
  - ・総工費6万490円余
  - ・貯水量178k m<sup>3</sup>
  - ・広さ58k m<sup>2</sup>
  - ・高さ17.1m
  - ・利用水田568町歩
- (資料「やまぐち今昔」大津文市著など)

堰堤でできた満々たる堰堤池、学校帰りに泳いで叱られた海上の子どもたち。堰堤のタテギ(立樋)には5個の栓があつて水量を調節した。最下段のものを「泥栓」といい、秋にこの泥栓を抜いて「泥サラエ」を行なった。この日は大人も子どもも山口堰堤に集まった。泥栓が抜かれ勢い良く放流されると、泥水に酔ったコイ・フナ・メソ(ウナギの幼魚)などが水面に浮かんできた、これをザル・タモや板に釘を打ちつけた「タタキ」で一斉に捕える一大イベントであった。今は大石や流砂が堆積して、かつての湖沼の面影はない。

(山川一年)



平成 24 年 5 月  
撮影の山口堰堤



## 海上の森の豊かさを伝えたい

自然環境調査の楽しみは、何といたっても刻一刻現れる森や里の生きものに出会えることです。今年もオオルリ・キビタキ・サンショウクイが森に繁殖のため営巢しました。住居があって、食べるものがあるって生きていけるのは、わたしたちヒトと変わらないことに気づきます。なので、ぞっとするような毛虫の群れも、大事な森のメンバーです。

自然環境調査では、毎週木曜日、森の一部を同じコースで鳥・虫・植物を確認し記録しています。平成23年度は、植物が379種・虫が170種・鳥が42種記録されています。

(詳細報告書は、「あいち海上の森センター」で見られます)

自然の豊かさを図る指標として**生物多様性**というものがあります。「種」の他に、干潟やサンゴ礁、湿地、河川、森林、里山などの「**生態系**」、アサリの貝殻模様の個性にみられる「**遺伝子**」、この3つのレベルが多様性を図るものさしであり、3つが多様であればあるほど、自然環境は豊かであるということになります。

地球規模の自然破壊が問題になってきた頃計画された2005年の国際博覧会が問題になったのも、森と里を改変することで生物多様性を減少させてしまうからという理由だったといえます。

ため池の造成で植えられようとしたキシノウブはなぜいけないのでしょうか。ショウブ、アヤメ、カキツバタ。日本在来のアヤメの仲間は、すべて紫色の花をつけ、日本の水辺における原風景です。そこに黄色の彩りを添えようとキシノウブを植えた途端、繁殖力が強いので、黄色ばかりのキシノウブになってしまいます。

キシノウブは、明治時代に入ってきた外来種ですが、観賞用として河川、ため池、ピオトープ等に植栽されることが多く、平成に入り急激に増加しました。今では「ショウブは黄色いのが当たり前」という人もいるほどのお馴染みですが、キシ

ノウブが増えると、在来の水辺の植物を駆逐してしまうおそれがあるほか、在来のアヤメの仲間(絶滅危惧種が多い)への遺伝的な影響も心配されています。そのため、環境省が注意を要する外来種として「**要注意外来生物**」としており、また、愛知県も「生態系に著しい悪影響を与えるおそれがある移入種」として、自然環境保全条例で公表しています。キシノウブは多様性を劣化させる外来種であり、ましてそれを県有地に植えることは許されません。

海上の森条例には「野生動植物の生育又は支障を及ぼすおそれのある行為をしないよう」とありますし、「入山・散策のマナーの看板」には、「動植物はむやみに持ち込んだり植え付けないでください。」とあります。キシノウブだけでなく園芸種も同様な扱いが必要です。

今回のため池は、今のままなら、ため池本来の目的である田んぼの灌漑が果たされていませんし、ため池施工前の生物を減少させただけになり、海上の森と里にとってプラスとはいえないこととなります。

まだ生まれていない子どもたちから預かった海上の森を豊かなままに渡すため、保全と将来像の基準を生物多様性に置きましょう。

(曾我部行子)



里山にて

# グループ活動報告

## <自然環境調査グループ>

グループリーダー：曾我部 紀夫

毎週（木曜日）の観察、調査を長く続けていると色々な変化が見えます。

この時期、例年通りコバノミツバツツジ、ミヤマガズミ、コバノガズミ、オオカメノキやヤマボウシなどの花が咲きましたが、昨年と比べると花の数が少ない状況でした。特にオオカメノキは感覚的には昨年の1/10程度で花の咲かない木も多くありました。

チョウも昨年、一昨年と比べると少ない状況で、特にピンクの花が咲いたタニウツギには例年2～4匹の黒いアゲハ（クロアゲハ、ジャコウアゲハ、オナガアゲハなど）が群がっているが、今年は1匹も見られないこともありました。

野鳥は例年通り夏鳥（オオルリ、キビタキ、サンショウクイ、センダイムシクイなど）の声をよく聞くことができました。この時期は繁殖期でオオルリの巣を見つけました。しかし、この巣は卵がなくなり、雛にはなりません。なぜ卵がなくなったのかはわかりませんが人為的なものでないことを願っています。野鳥の撮影に多くのカメラマンを見かけますが、繁殖時の鳥過度のストレスをかけないように心がけていただきたいものです。

写真はオオルリの巣で海上に森センターに展示してあります。



## <森づくりグループ>

グループリーダー：平野 幸治

4～6月の活動報告をします。

- ① 尾根筋の間伐、枝打ち。
- ② 5～6月ゾーンの作業地の湧水対策のため、

材料 20 本を使い、架橋を設置。

- ③ 作業路の草刈り。

活動日：10日 参加者：延 68名

間伐：30本 枝打ち：299本 架橋：1か所

又、企業連携の間伐体験には4回の作業に対し延14名を派遣しました（雨天中止1回）



枝打ち作業

## <野あそびグループ（森ツ子クラブ）>

グループリーダー：大澤 秀文

- ◆ 森っ子クラブ「あそび村」は3年目を迎えました。みんなが創る「あそび村」の広場もネイチャーランドができ、フモトミズナラも一チャーランドが出来、フモトミズナラ（モンゴリナラ）も成長し始め、夢のドングリ広場になり始めました。
- ◆ 4月～5月に広場の笹刈りや裏山のナラ枯れの樹を倒し、そしてサポーターの方々による手づくりネイチャーランドの遊具を新たに完成させました。・・・なわ橋・丸太わたし・2段ロープ、超ロング縄ブランコなど



キャーしか聞こえないよ

なわ橋はむずかしい

- ◆ 5月26日海上の森のゴミ清掃をやりました（海上の森の会主催と共同作業）お弁当の後、「あそび村」の裏山の尾根まで冒険。そ

# グループ活動報告

して尾根の広場に去年海上の森で拾ったドングリの苗を植えました。いつドングリができるか楽しみです。

栗の木のみが見渡せるようになりました。今年度は根切り、溝掘り、剪定、枯れ木の補充を実施します。

## <里の教室>

グループリーダー：藤野 昌之

平成 24 年度の里の教室が 5 月 20 日から始まった。昨年は天候が優れず、東日本大震災が発災した直後でなんとなく暗く重々しい雰囲気漂っていたが、今年は晴天の下順調にスタートした。



5/27 里芋の  
植え付け

第 1 回目は全体の説明、さつまいもの植付けを行なった。第 2 回目は里いもの植付け、インゲン豆の種まき、田の草取りを行なった。6 月 10 日の第 3 回目は前半の山場となる田植え等を行う。

6/10 田植えの様子



## <里の再生活動>

グループリーダー：鈴木 五男

荒れた里地を甦らせよう」再生活動は 3 年目を迎え、棚田の再生及び果樹園の再生をスタッフにて進める計画です。

・上田（通称）での取り組み

竹、笹、雑草は生い茂り見る影のない柿畑は 3 年の成果によって地形が現れ柿、枇杷、梅、



竹・笹の根が侵入しないよう溝掘り作業

・下田（通称）での取り組み

土手づくり、雑草の除去に 1 年。その後南斜面（田圃跡）の雑木伐採、水路整備、作物づくり、ため池修景、ハッカ・チョウジタテ対策等順次進めてきました。今年度も引き続き水路整備・物づくり等中心に汗かき活動を実施します。



下田の水源地付近、蔓枝葉サバ土等に遮られ堰止められた水路の復元作業



田圃に水を張り苗田づくり

## 第一回里山環境保全活動（海上の森清掃）

グループリーダー：福田 澄夫

5 月 26 日（土）、晴天に恵まれ、参加者 25 名（子供 3 名含）で 2 コースに分かれ海上の森散策路のゴミ拾いを実施しました。あいち海上の森センター所長の近藤さんも参加され、ご一緒に心地よい汗を流しました。



# グループ活動報告



訪れるハイカーの皆さんのマナーが良くなったのか、ゴミはあまり見られませんでした。又、不法投棄された廃棄物も今回はありませんでした。

瀬戸市環境課にもご協力いただき回収したゴミは即座に回収されました。ご協力いただいた皆さんありがとうございます。次回は6月23日(土)に草刈りを行います。



回収されたゴミ

## <サテライト維持管理グループ>

グループリーダー：出口 なほ子

4月29日(日)

サテライト周辺の草刈り

6月8日(金)

サテライト庭の草取りと周辺の草刈り



皆さんの憩いの場所サテライトを大切にしましょう。

## <里のくらしグループ>

グループリーダー：出口 なほ子

4月1日「里のおひな祭りとおこしもんづくり」をおこないました。

前日の雨がうそのように朝からいいお天気でした。参加者が少なくて残念でしたが、1組の親子(3人)さんが、森の会ホームページを見て参加していただいたことは、大変うれしかったです。少人数でわきあいあい出来ました。



おこしもんの色着けです



セイロで蒸しています。

さて今年の里のくらしの目標としまして生活面を重点に実施していこうと皆さんで話し合い、ために夏休みに「わらぞうり」「布ぞうり」づくりをすることにしました。いま材料集めに四苦八苦しているところです。



わらぞうり



布ぞうり

会員のみなさんで特に布を提供していただければ幸いです。次回は昔遊びの道具をつくりたいと思っています。

# グループ活動報告

## <生活史調査グループ>

グループリーダー：鈴木 敏明

本年度の活動では、海上の暮らしを海上の内側からばかり見るのではなく、海上に詳しい海上以外の方々にも積極的にお会いし、外からの聞き書き調査も進めることになりました。

第1回目の聞き書き調査は、6月2日（土）の朝から、海上の里にある通称「海上山荘」（鈴木敏明家）で行われました。ご参加頂いたのは新見芳江さん（大正9年生まれ）、山田みや子さん（昭和14年生まれ）、浅野しえ子三（昭和12年生れ）で、何れも山口地区在住、地元小学校父兄の任意団体「梅の実会」のメンバーです。



6/2 草餅づくり

海上の集落は山口川支流海上川の源流に近い奥まった所にあるため、近隣のムラムラとは隔離した世界であるような印象を受けやすいのですが、実際には海上と山口地区の屋戸、吉田をはじめとする旧シマ（ムラ組）との交流があったということでした。多度神社の節供祭りの参拝、海上の田植えの手伝い、十五夜月見のイモサシ（芋挿し、ダンゴ盗みのこと）、へボ（地蜂）取りなど、子どもの頃から海上に来る機会は多かったといえます。今回は山荘で五月節供の草餅も作ってもらいました。

「あのなんし」（あのね）といった独特の山口言葉もあるということで、これからの調査が楽しみです（鈴木敏明）。

6/2 調査に集まったメンバー

平成24年度グループリーダー紹介			
活動推進グループ	◇ 参加要件		リーダー名
1 自然観察 G	週1度の生物調査に参加できる人。		曾我部紀夫
2 海上の森ツアーG	ツアーガイドをやりたい人。		山本 征弘
3 森づくりG	ノコギリからチェーンソーまでを使い、いい汗流したい人。女性会員の方も参加しています。		平野 幸治
4 親子野あそび G	子供と一緒に野あそびしたい人、男性も歓迎します。		大澤 秀文
5 里づくりG	年間を通じて農作業をやりたい人。		鈴木 五男
6 生活史調査G	海上の暮らしの推移を調査し、資料の整理をやってみたい人		鈴木 敏明
7 里の暮らしG	海上の里の年中行事に積極的に取り組んでいただける方。		出口なほ子
8 サテライト維持管理G	民家の修繕、屋敷周りの手入れをやりたい人。		出口なほ子
9 案内・巡回 G	案内巡回活動を通して、海上の森の保護に尽力したい人。		鈴木 正司
10 情報 G	ホームページの更新や海上の森に関する情報データベースの構築を実行したい人。		石神 栄治
12 里山環境保全チーム	海上の森の保全活動に参加したい人。		事務局 【会の事業】

## 理事会議事録

### 24. 5. 13 臨時理事会

第3回通常総会で役員選出後休憩を取り、理事会を開催して、理事長に福田澄夫氏、副理事長に山本征弘、藤野昌之両氏を互選しました。

### 24. 5. 26 5月理事会

理事会で次の議題について審議し、承認決定されました。

1. 第3回通常総会議事録の会員への公開は、事務所で6月10日まで行う。
2. 理事会及びグループリーダー会議の一般会員の傍聴は、慎重審議の結果認めないことを決定した。
3. 24年度収支予算に対する支出額は20%を超えないものとし、やむを得ず20%を超過する場合は、事前に理事会の承認を得ることを議決した。
4. 決算報告については、NPOを対象として制定された新しい会計基準への移行も含めて今後検討して行く。
5. 24年度事務局は、福田理事長、山本、藤野両副理事長、似内、鈴木五男両理事で構成することを承認した。
6. 海上の森センターとの調整会議は、事務局メンバーが出席して行うことを承認された。



## 「ため池の維持管理」についての報告

6/5に地権者、あいち海上の森センター、森の会と完成した溜池の維持管理について話し合いが持たれました。海上の森センターから「ため池維持管理等取扱（案）」が提示されそれに沿って協議しました。維持管理の体制について、関係者（地元地権者・利用者・森の会）の助言を得て、実施計画を立て協力し合って実施する事が確認されました。実施内容は巡視、草刈り、植栽樹の管理、自然災害や獣害対策なども計画を立て実施することも確認されました。



現在、ため池の水は、下田の旧来から耕作されている水田に加え、再生した4畝歩の水田を灌漑しており、特に今年は流入する水が不足したため池の水が4回恩恵を与えていることも報告されました。

（福田 澄夫）

## ＜7月～9月のグループ活動報告＞

 **森づくりグループ** \* 7月の全作業日、8月4日、7日は作業なし 

活動日		時間	集合場所	作業内容	持ち物
8月	18日(土) 21日(火)	8:40~	入口駐車場	小屋の道具の棚卸 作業路草刈り	弁当・飲料水
9月	1(土) 4(火) 15(土) 18(火)	〃	〃	間伐・枝打ち	〃

 **里の再生グループ・スタッフ作業日** 

活動日		時間	集合場所	作業内容	持ち物
7月	4日(水)・21日(土)	9:00~	サテライト	竹・笹根切り	お弁当・飲料水
8月	1日(水)・18日(土)	〃	〃	シイタケ畑笹・草刈り	〃
9月	5日(水)・15日(土)	〃	〃	水路整備・溝切り	〃

 **里の教室・スタッフ作業日** 

活動日		時間	集合場所	作業内容	持ち物
7月	11日(水)・25日(水) 29日(日・教室)	9:00~15:00	サテライト	農作業	お弁当・飲料水
8月	8日(水)・22日(水) 19日(日・教室)	〃	〃	〃	〃
9月	12日(水)・26日(水) 23日(日・教室)	〃	〃	〃	〃

 **森っクラブ**

活動日	時間	集合場所	行事内容	持ち物
7月7日(土)	18:30~21:00	入口駐車場	ホタルの鑑賞会	飲料水・雨具・懐中電灯
9月8日(土)	9:00~15:00	〃	せみのぬけがら探し	お弁当・飲料水

特定非営利活動法人 **海上の森の会**

事務所 : 〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1

「あいち海上の森センター」3F

電話&FAX : 0561-21-9298

Eメール : [morinokai2004@kxa.biglobe.ne.jp](mailto:morinokai2004@kxa.biglobe.ne.jp)

ご意見ご感想をお待ちしています

森の会への連絡はメール・FAX・〒でお送り下さい。



**里のくらしグループ** 

「**農休みとホタル刈り**」

日時 : H24年7月7日(土)

「**わら草履づくり(布)**」

募集人数 ; 30人

日時 : H24年8月25日(土)

\*詳しい案内はHPをご覧ください。

＜編集後記＞ 毎年のことながら「おかしな気候だね」が山で合う人々の挨拶変わりの言葉になっています。それでも小鳥は卵をうみ、葉は芽吹き、花は咲き、山は笑います。どうぞ海上にいらしてください、そして一緒に笑いましょう。(中元 恵子)